

目的 近年市場に出廻っているパンティストッキング（以後、PSとする）のほとんどにサポートという用語が表示されている。“サポート力が脚を細くし、疲れから守る”など美と健康を強調しているものが多い。本研究では、PSの着用圧が下肢部の寸法にどのような影響を与えるのか（実験1）、また下腿部の“むくみ”への影響（実験2）について明らかにした。

方法 着用圧の異なる3種（強、中、弱）のPSを試料とした。（実験1）女子大生7名を被験者として、下肢部10カ所の寸法を計測し、PS着用前後の寸法差を算出した。

（実験2）PS製造メーカーの定位置立位作業員30名を被験者とし、入社時に試験用PSを着用させ、その直後と、着用9時間後の退社時に下腿最大囲、下腿最小囲、足囲の計3カ所を計測した。

結果 （実験1）大腿最大囲と足囲の寸法変化が大きく、着用圧の大きいPSほど寸法の減少が大きかった。しかし逆に、下腿最小囲では着用圧の大きいPSほど寸法が増加する傾向が認められた。また、下腿最大囲での寸法変化は少なく、各々のPSの厚みを差し引いた場合で、最も着用圧の強いPSでも約1mmであった。（実験2）着用圧の小さいPSほど、下腿最大囲および下腿最小囲での寸法増加が大きく、下腿部の“むくみ”の程度が大きいことがわかった。すなわち、着用圧の大きいPSほど下肢各部の寸法に与える影響が大きく、“むくみ”の少ないことが明らかとなった。